

地方公共団体から応募された地域課題

別紙1

整理番号	県名	団体名	分野名	該当地域	地域課題の内容
1	岡山県	備前市	地域通貨	備前市全域	<p>■地域経済活性化に向けた地域通貨の導入 デジタル地域通貨・ポイントの活用等により、地域内の経済循環等を促進し、地域を活性化したい。</p> <p>本市が実施している健康ポイント、住宅関連補助金の支給等をポイント（地域通貨）化して発行。受け取った市民はアプリ等でポイントを貯めることができ、そのポイントを市内の店舗において買い物に利用できるよう、プラットフォームを構築する。</p> <p>また、スマホ等の操作に不慣れな高齢者が多いことから、磁気カードなどのスマホ等によらないポイントの仕組みづくりが必要と考えている。</p> <p>加えて、付与したポイントの種類に応じ、ポイントを消費できる店舗を指定できるような仕組みが必要と考えている。</p> <p>上記仕組みづくりについてご提案いただきたい。</p>
2	広島県	広島県			<p>広島県では、人口減少と高齢化が加速する中山間地域において、持続的な農業生産活動の推進や日常生活の安心の確保を、限られた人的資源でいかに実現していくかが課題となっている。県では、中山間地域を有する市町の地域課題解決に向けた取組を支援しており、次の中山間地域に共通する課題について、市町とともに検討を進めたい。</p>
			農林水産業	広島県内の中山間地域を有する市町	<p>■中山間地域における鳥獣被害防止の仕組みづくり</p> <p>中山間地域においては、高齢化等による農地の担い手の不足により耕作放棄地が増加しており、イノシシやシカ、サル、カラス、ヒヨドリ等の被害に悩まされている。</p> <p>これまで、ICTを活用したイノシシやシカ等の生息状況及び移動状況や被害状況といった基礎データの把握・分析については一定程度進んできたものの、対策にあたっては集落が一体となって、あるいは複数の市町が連携して取り組む必要がある中で、対策を講じる担い手が不足している状況に変わりなく、被害の軽減につながっていない。</p> <p>ICTを活用した効率的な鳥獣の捕獲手法や被害軽減の仕組みを検討したい。</p>
			医療・介護・健康	広島県内の中山間地域を有する市町	<p>■中山間地域における遠隔医療体制の構築</p> <p>中山間地域においては、通院が困難となる高齢者や、診療料が少ないために他市町への長距離移動が必要な利用者も多い（小児科等）。今後も高齢化や人口減少が進行していくことを踏まえ、ICTを活用して、高齢者等の通院の負担を軽減するとともに、広域的な医療連携の仕組みを構築する必要がある。</p> <p>令和4年度においては、すでに複数の地域でオンライン診療の実施が試みられているが、次のような課題があり、医師や患者が使いやすいシステムの構築に苦慮している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン診療において、セキュリティが確保され、なおかつ通信が安定し、誰でも使いやすいテレビ会議システムの選定が難しいこと ・ウェアラブルデバイスなどを用いて患者が自ら血圧などのバイタルデータを取得し、そのデータをオンライン診療に活用したいが、高齢者による操作が難しいことや、医師・看護師等とのリアルタイムでの共有がスムーズにできないこと ・自宅や集会所にいる患者をオンラインで診療するにあたって、プライバシーの確保が難しいこと <p>さらに、将来的に患者と医師及び都市部の専門医をオンラインでつなぎ、中山間地域に不足する専門医を補う重層的な医療体制を構築したいと考えている市町が複数あるため、市町間でのデータの連携をしやすい仕組みを検討したい。</p>
3	広島県	坂町			<p>坂町では、主に交通弱者の移動手段を確保する目的のもと、1日に3路線・32便の町内循環バスを運行しており、年間約5万人程度に利用されている。令和元年に実施されたアンケートでは、利用者のうち約25%が町内循環バス以外に交通手段を持たないと回答したことから、交通弱者の移動手段として重要な役割を果たしているといえる。</p> <p>一方で、循環バスに対する利用者満足度は約40%と決して高いとはいえない。満足度の低さの要因として、特に運行本数・運行間隔への不満が大きく、約40%もの利用者が不満を感じている。乗車するまでの待ち時間の長さや日中の運行本数の少なさを指摘する声も多く、利便性に対する評価は芳しくない。</p> <p>また、条件次第ではバスを利用したいと考える潜在的利用者も一定数存在する。このような人のうち、約20%が自宅の近くにバス停やルートがあれば利用したいと回答しており、物理的にバスの利用が難しい方も多く考えられる。特に旧市街地ほど高齢化率が高い傾向にある坂町の現況を鑑みると、道幅が狭いために物理的にバスの運行が難しい地域に住む高齢者の方が満足に移動できないことは想像に難くない。</p> <p>これらのニーズはアンケート以外でも住民の声としてしばしば寄せられるものであり、ダイヤ・ルートの変更やバスの小型化など様々な改善策を実施している。しかし、恒常的に赤字が続く運営状況から、実施することができる対策には限りがあるのが現状である。</p> <p>以上の現況から、顕在化している以下の2点の課題に対する解決案の提案をいただきたい。</p>
4			公共交通	坂町全域	<p>■坂町循環バスのルート・ダイヤの最適化</p> <p>住民の声を元にルート・ダイヤの改正を行っているが、コスト面等の制約から、運行本数を大幅に増やすことによる解決は難しい。また、限られた台数のバスで運行している現状では、運行範囲の拡大と目的地までの所要時間の短縮を両立させることは難しく、ルート構築するにもいくつかの制約がある状況である。このようにリソースが限られている中でも、より少ないコストで、利用者が希望する時間・場所でバスに乗り、目的地へより早く到達できる環境を実現し、利用者満足度を向上させる最適な手法を検討し、利便性のより一層の向上に努める必要がある。</p>
5			公共交通	坂町全域	<p>■狭陰地域における高齢者等交通弱者の移動手段の確保</p> <p>旧市街地においては、道幅が狭く現在運行している車両では走行が難しい地域が存在しており、最寄りのバス停に到達するまでかなりの負担を要するケースもある。しかし、より小型な車両の新規導入による解決は現時点では難しい。このような道幅が狭い地域に住む交通弱者のための移動手段をバスに限らず確保する必要がある。</p>